

2017年 観光動態調査（1月～12月）

柳川市観光課

1. 概要

2017年（1月～12月）の柳川市への観光客入込客数は、2016年の約131万6千人から約10万2千人増加し、約141万8千人だった。

2016年は、4月に発生した「熊本地震」の影響を受け、4月の入込客数が大幅に落ち込んだが、2017年は、例年どおり3月から4月にかけて、入込客数がピークとなった。また、7月下旬に満開となった「柳川ひまわり園」には、2016年と比較し2倍もの来場者が訪れるなど、過去最高を更新した。

観光消費額は、2016年の約61億2千万円から約67億7千万円と増加し、1人当たりの消費額は、2016年の約4,650円から約4,770円と微増した。要因としては、宿泊客数が増加したことが、観光消費額の増加を後押ししたものの。

宿泊客数は、2016年の約5万2千人から約8万1千人に増加。2016年6月に開業した「ホテルニューガイア柳川」及び2017年3月に開業した「ホテルルートイン柳川駅前」が寄与している。また、2017年に宿泊客倍増事業に取り組み、商談用ガイドブックの作成、旅行会社に対する宿泊を伴う商品の造成依頼及び国内外におけるプロモーション活動を行ったことから、宿泊客の増加に繋がったもの。

観光客の交通手段は、乗用車利用者が約59%、西鉄電車利用者が約25%、大型バス利用者が約16%の割合となっている。割合だけを見ると、乗用車が3%増加、電車が2%減少、バスが1%減少となっている。大型バス利用者は、バス料金の値上げによる影響により、2016年は苦戦したが、2017年は約3千人の増加となり、バスツアー助成事業の効果があったものと考えられる。

川下りの利用客は、2016年の約34万人から約42万8千人となり、約8万8千人の増加となった。各舟会社が、海外の旅行会社等に向けたプロモーション活動を行ったことによる。

外国人観光客は、過去最高を記録した2015年の約14万9千人と比較し約9万6千人増加し、約24万5千人となった。月別の入込客数については、すべての月において前年比1.6倍～3.2倍となった。舟会社をはじめとした観光事業者の営業努力や、柳川市観光協会と行政の連携により、観光客誘致のためのプロモーション活動を国内外で行ったことによる。

2. 観光入込客数

(1) 観光入込客の推移

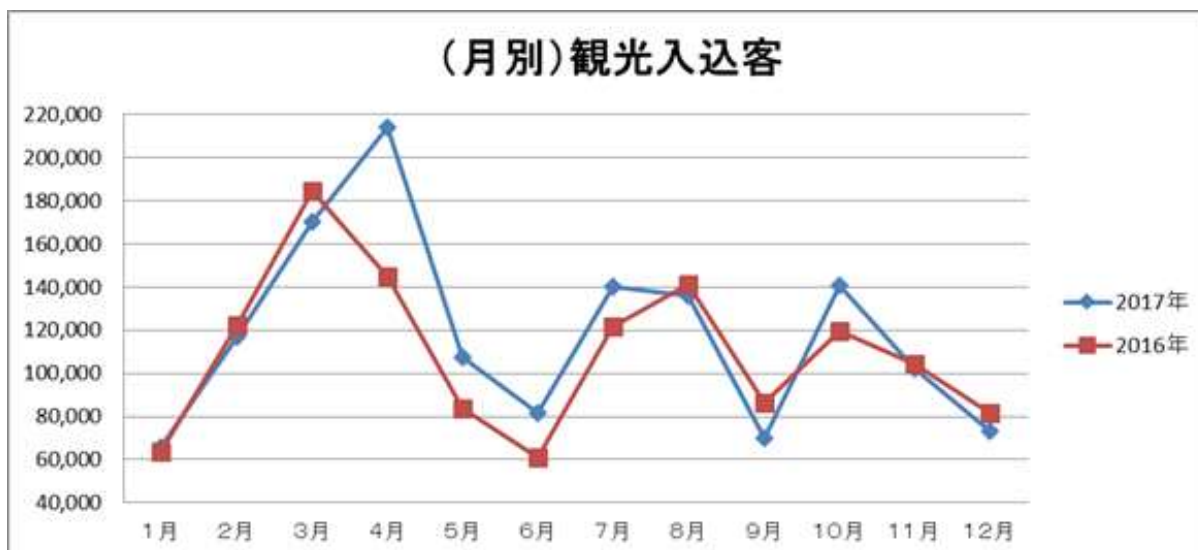
観光客の入込客数は、約 141 万 8 千人で、2016 年と比較すると約 10 万 2 千人の増加となり、過去最高であった。主な要因は、外国人観光客が増加したことによるもの。



(2) 月別観光入込客数

入込客数を月別にみると、4 月がピークとなった。2016 年と比較し、来場者が 7 万人増加した「大藤まつり」が寄与している。2016 年 4 月に発生した熊本地震の影響により、同年 4 月から 6 月の観光入込客数が減少していたが、2017 年には回復した。

傾向的には、「熊本地震」の影響を受けた 2016 年 4 月を除き、例年と同じような推移が見られる。

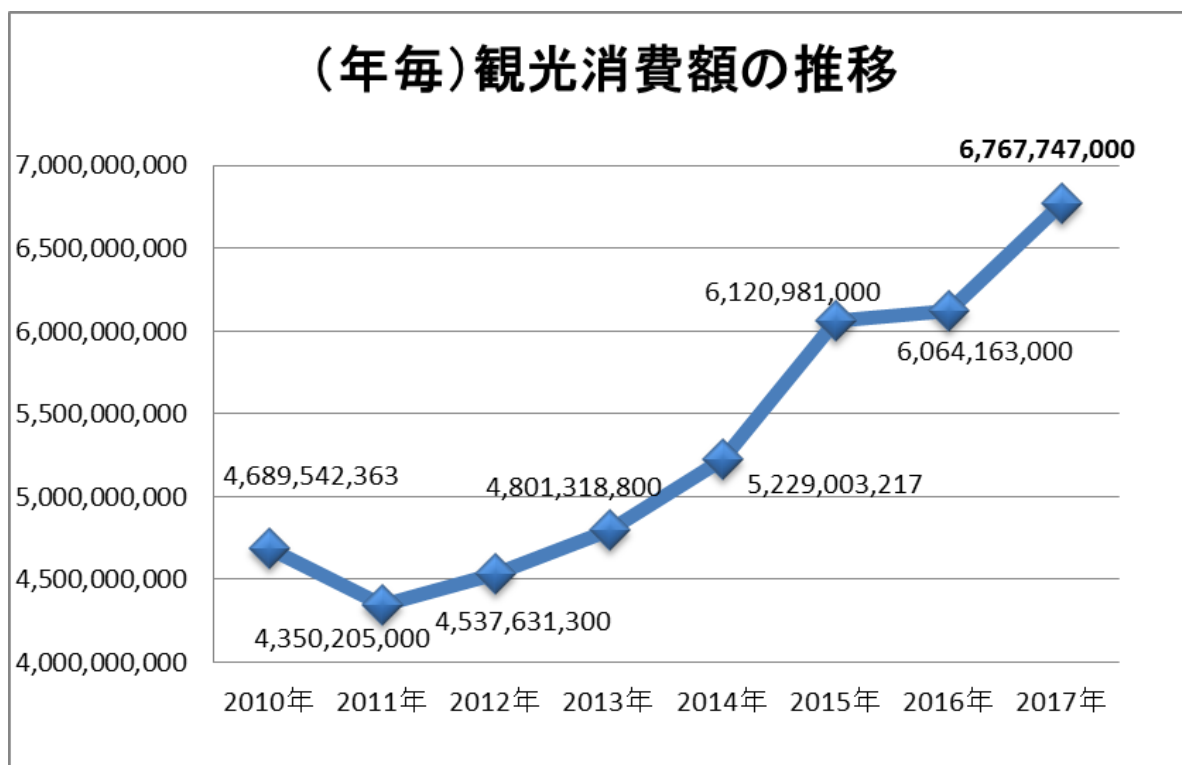


3. 観光消費額

(1) 観光消費額の推移

観光消費額は約 67 億 7 千万円で、過去最高を更新した。2016 年と比較し、約 6 億 4 千 7 百万円の増加であった。1 人当たりの消費額は約 4,770 円で、2016 年と比較し、120 円増加した。これは、宿泊客数の増加したこと、外国人入込客数の激増によるもの。

最も高い消費額は、食事代で約 27 億 7 千万円。次に、お土産代の約 24 億 9 千万円。また、宿泊が約 7 億 8 千万円、川下りが約 5 億 7 千万円と推計される。

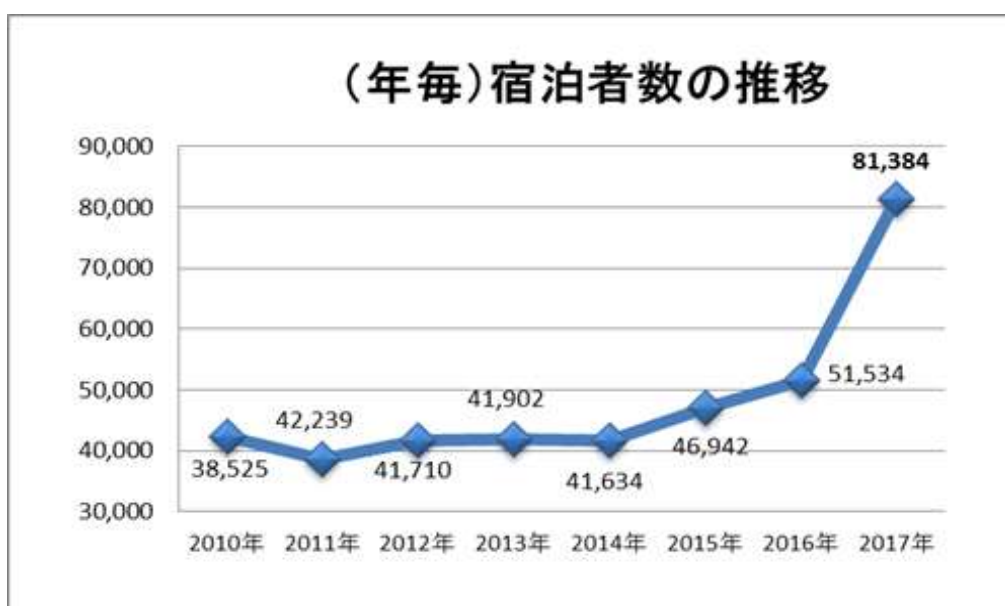


4. 宿泊客数

(1) 宿泊客数の推移

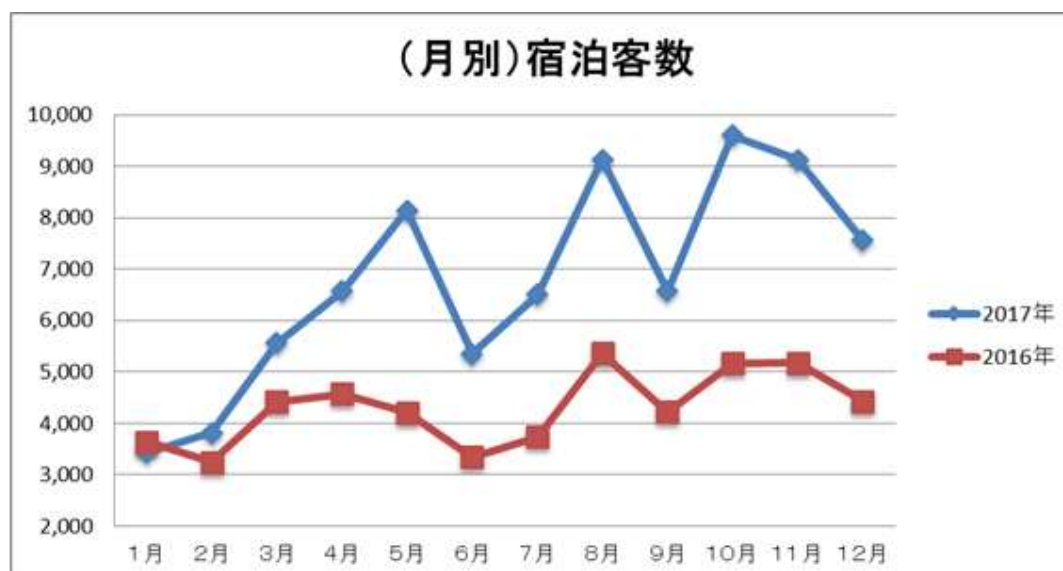
宿泊客は、約 8 万 1 千人であり、前年と比較し、約 3 万人の増加となった。2016 年 6 月に開業した「ホテルニューガイア柳川」及び 2017 年 3 月に開業した「ホテルルートイン柳川駅前」が寄与している。また、2017 年に宿泊客倍増事業に取り組み、商談用ガイドブックの作成、旅行会社に対する宿泊を伴う商品の造成依頼及び国内外におけるプロモーション活動を行ったことから、宿泊客の増加に繋がったもの。

宿泊客数は前年比 1.58 倍であり、観光入込客数に占める宿泊者数の割合は、約 4%から約 6%と増加したものの、日帰り・通過型の観光客が大半を占めている状況は変わっていない。



(2) 宿泊客数と観光入込客（月別）

2017 年の月別宿泊客数は 10 月がピークで、次に 8、11 月となっている。1 月を除くすべての月において、2016 年を大きく上回る宿泊者数となった。

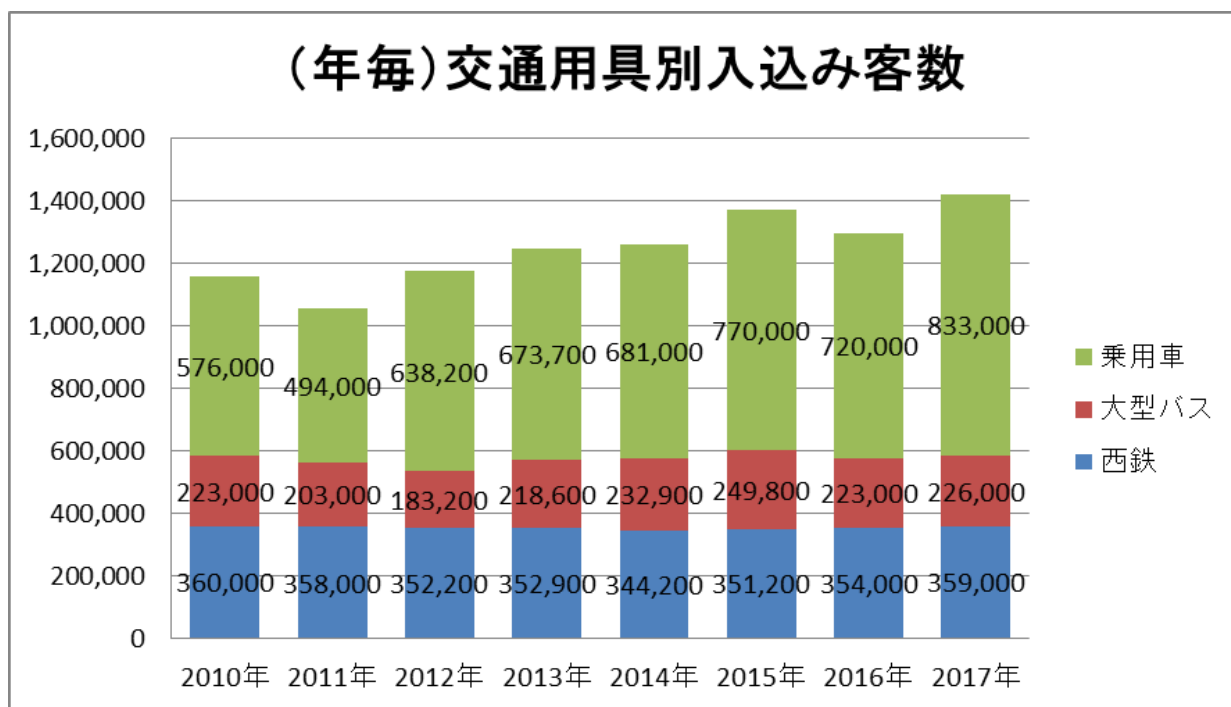


5. 個別の交通機関

(1) 交通用具別入込客数の推移

交通手段（大型バス・西鉄電車・乗用車）別に観光入込客数を推定すると、乗用車利用者が全体の59%を占め、西鉄電車利用者が約25%、大型バス利用者が約16%となっている。

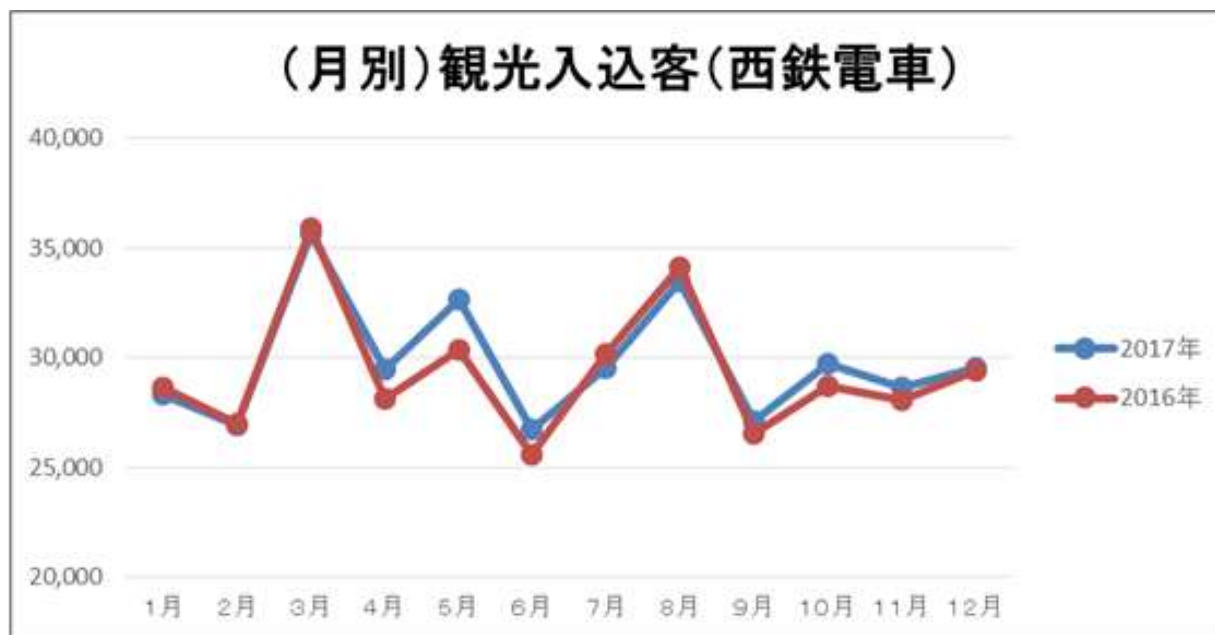
このことから、乗用車や西鉄電車で移動する小グループ・家族で旅行する個人型の観光が多くを占めていることが分かる。



(2) 西鉄利用者（柳川駅）

西鉄柳川駅定期以外の乗降客数は、約 198 万 7 千人であり、2016 年と比較し約 2 万 9 千人の増加となっている。その中で、西鉄を利用する観光客入込みは、35 万 9 千人と推計され、個人や小グループでの外国人観光客が増えていると推測される。

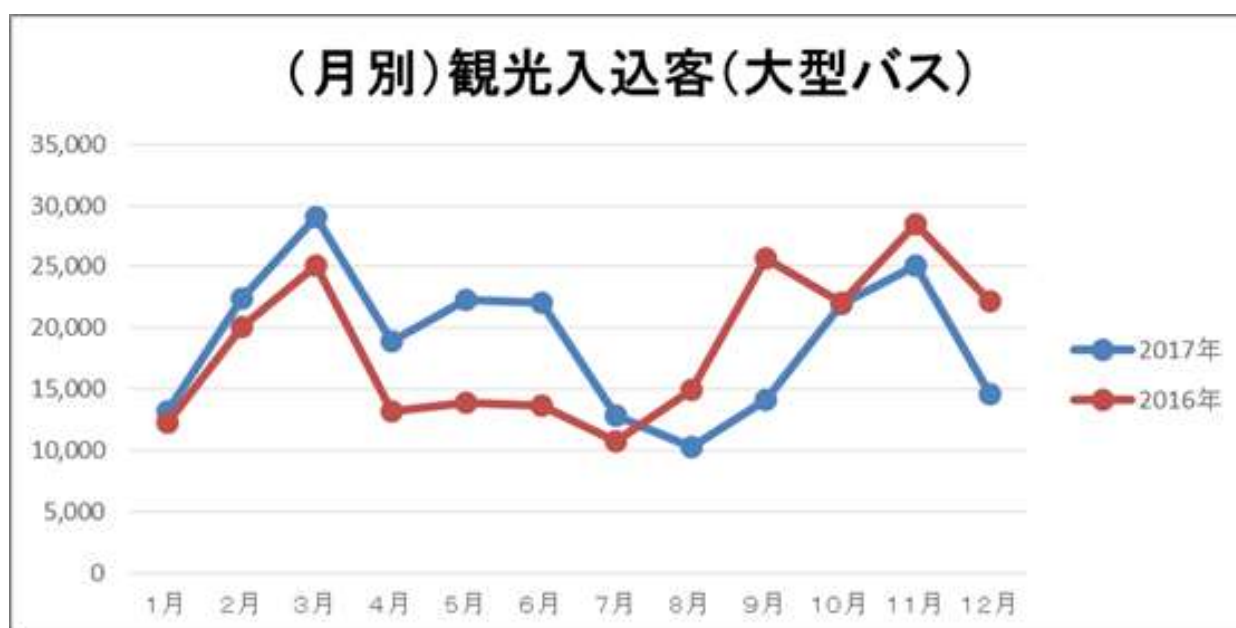
西鉄利用の観光客のうち、「太宰府・柳川観光きっぷ」、「柳川特盛きっぷ」等の企画きっぷを利用した観光客も見られる。「太宰府・柳川観光きっぷ」等は、韓国、台湾、香港等でも販売されていることから、事前に購入した外国人観光客も訪れていると思われる。



(3) 大型バス

大型バス利用者は、約 22 万 6 千人で、2016 年に比べて約 3 千人増加した。2016 年は、熊本地震によるバスツアーの減少、バス料金の改定に伴う値上がりにより苦戦したが、2017 年は僅かに回復した。バスツアー助成事業の効果がみられる。

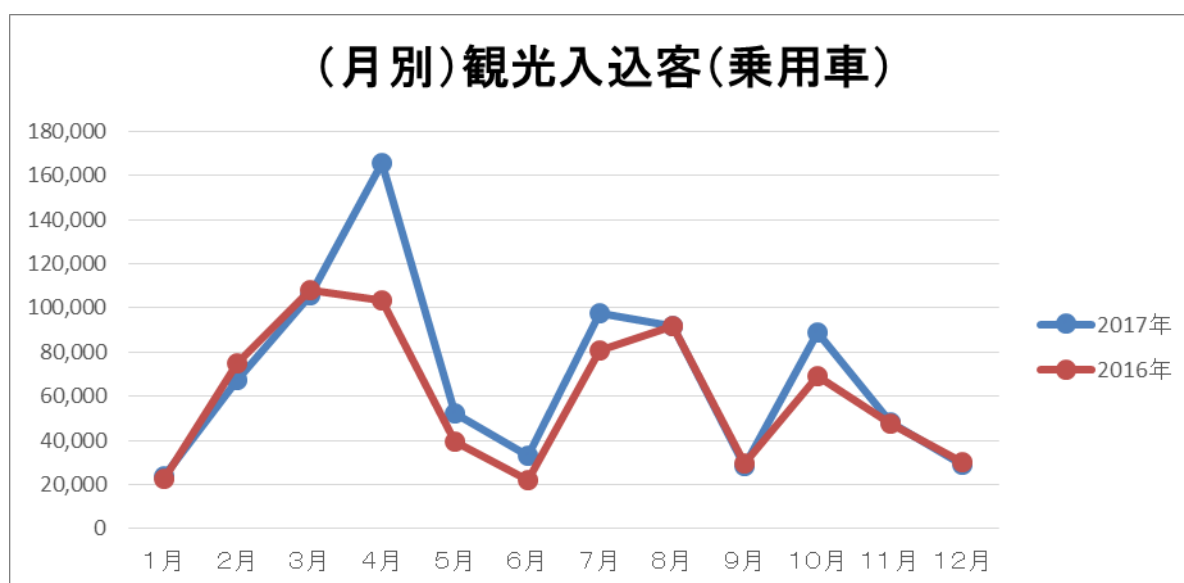
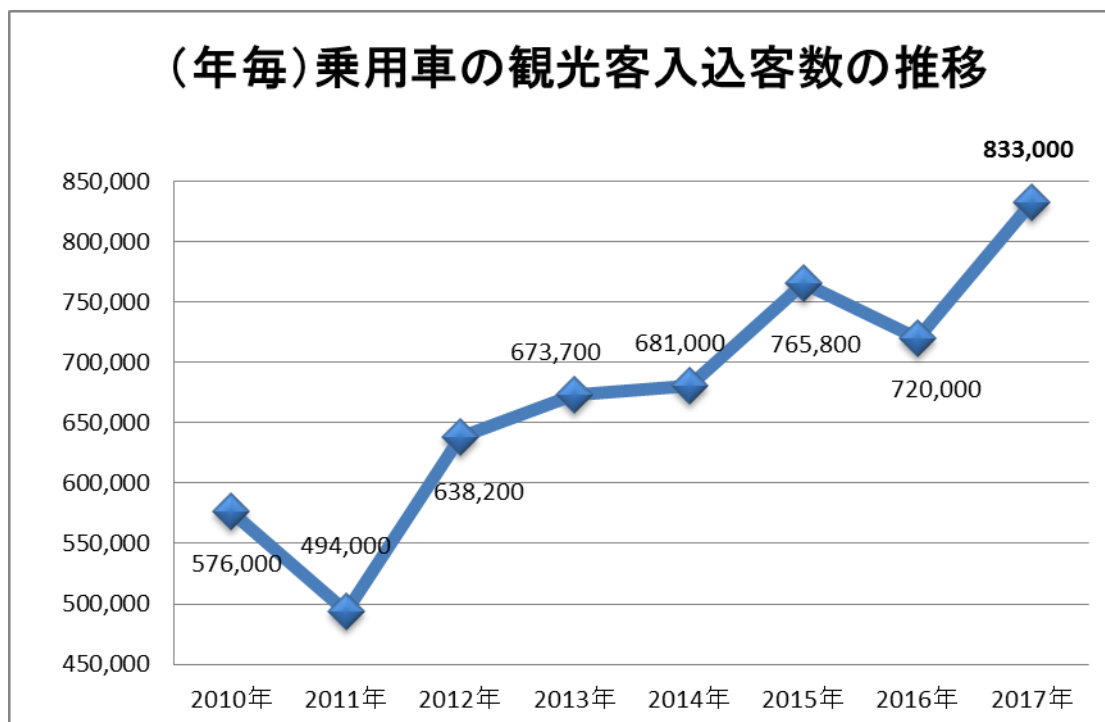
なお、1 月から 7 月は前年を上回る数値となった。



(4) 乗用車

イベント駐車場利用を除いた市営駐車場などの主要駐車場の駐車状況をみると、前年並みの約1万7千台であった。近年は、外国人観光客を中心にレンタカー利用が増しており、ピーク時には、駐車場が不足する状況が見られる。

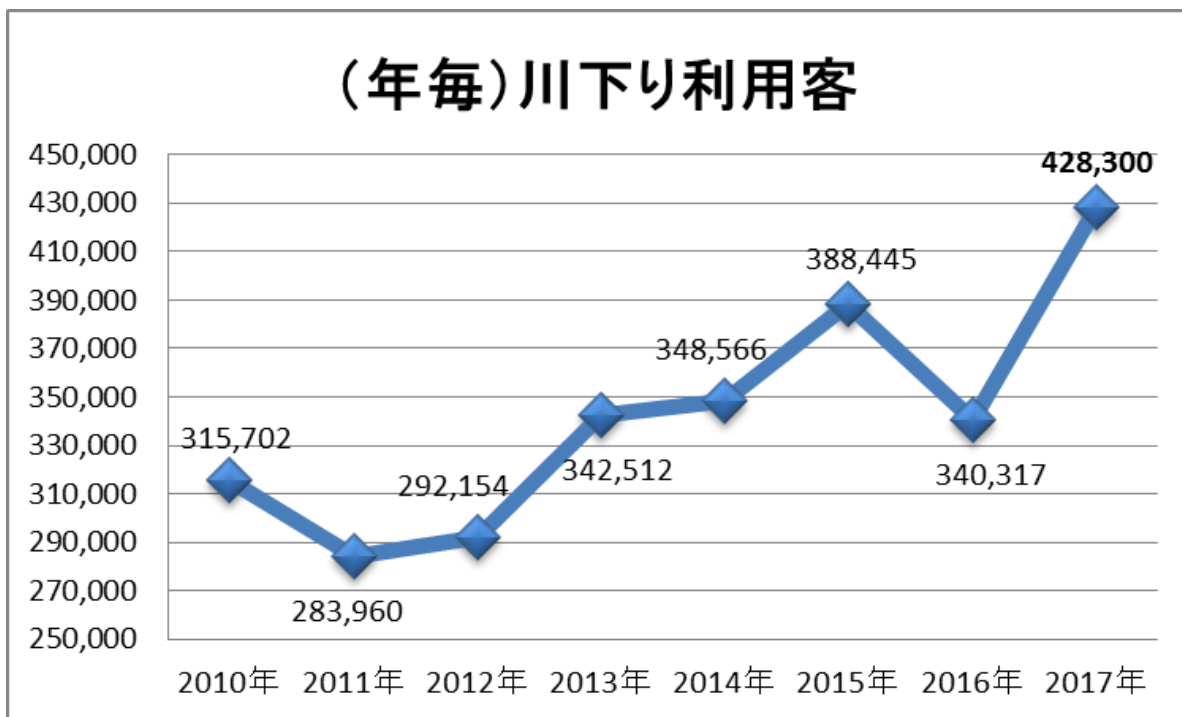
マイクロバスを含めた乗用車を利用する観光入込客は、約83万人で、2016年と比較し11万3千人の増加となった。



6. 主な観光施設の入込客数

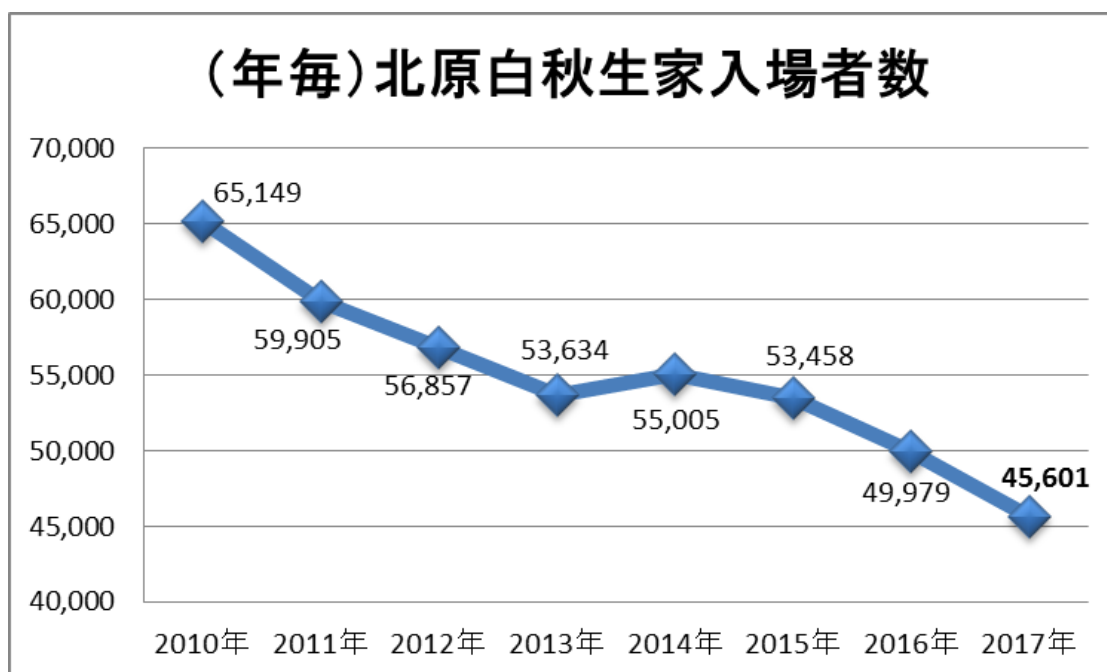
(1) 川下り

川下り利用者については、約43万人で、過去最高を更新した。2016年と比較し約8万8千人の増加となった。観光協会、舟会社及び行政が協力し、国内外で営業活動を行ったことにより増加したものと思われる。



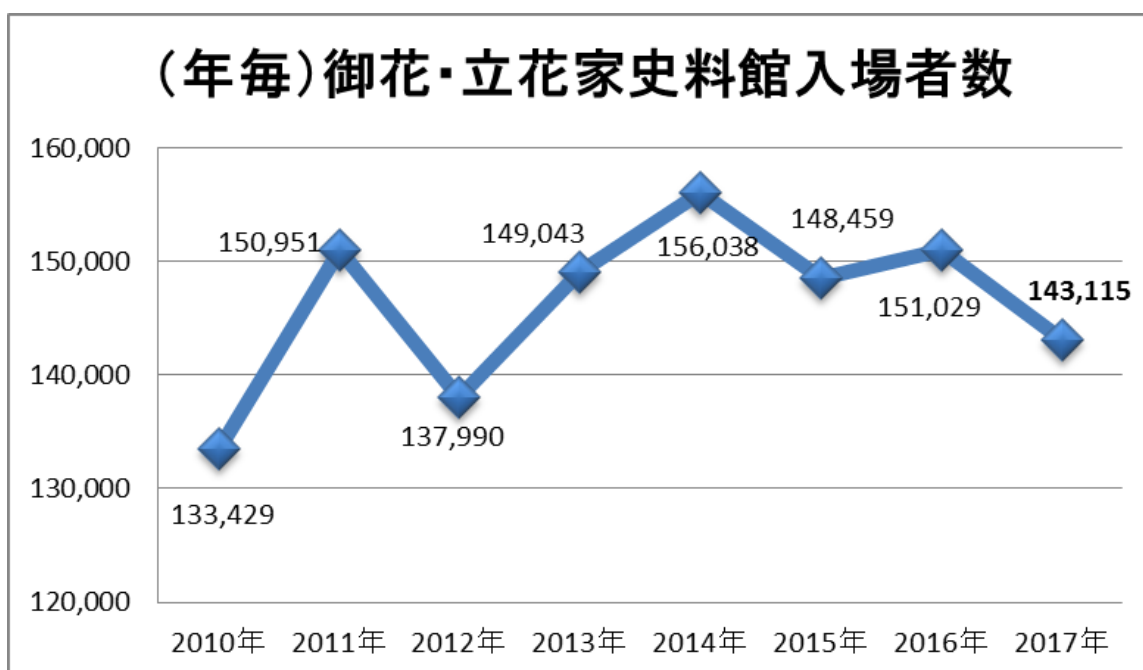
(2) 北原白秋生家

北原白秋生家の入場者数は、前年に引き続き5万人を割り込む結果となった。2014年に微増して以来、減少傾向が続いている。



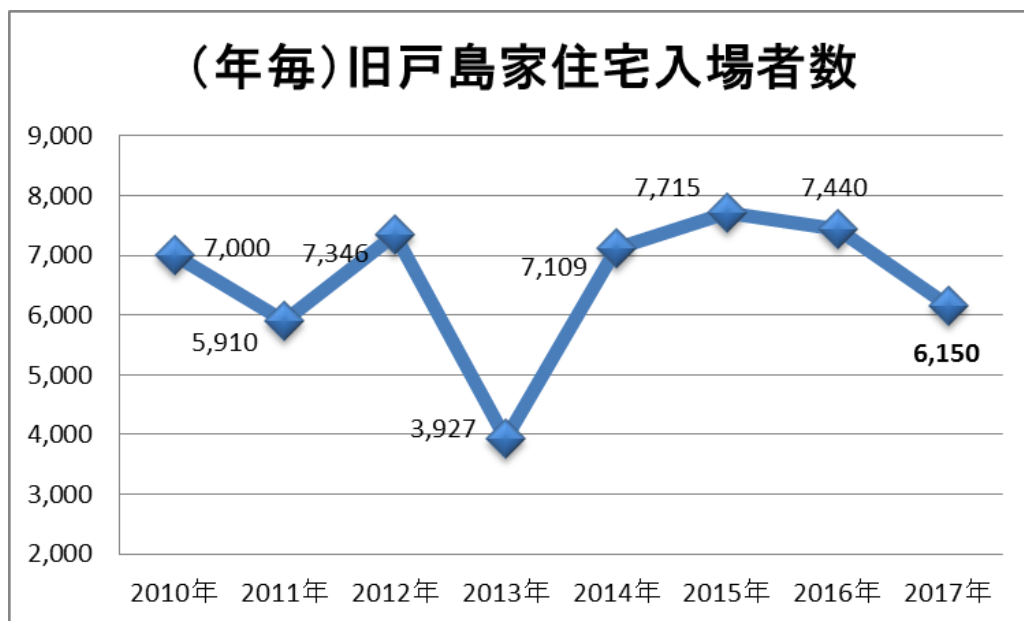
(3) 御花・立花家史料館

立花家史料館の入場者数は、約14万3千人であり、2016年と比較し、約8千人の減少となった。前年は熊本地震の影響を受けながらも15万人台に回復していたが、2017年は、大広間の改修工事の影響により減少した。



(4) 旧戸島家住宅

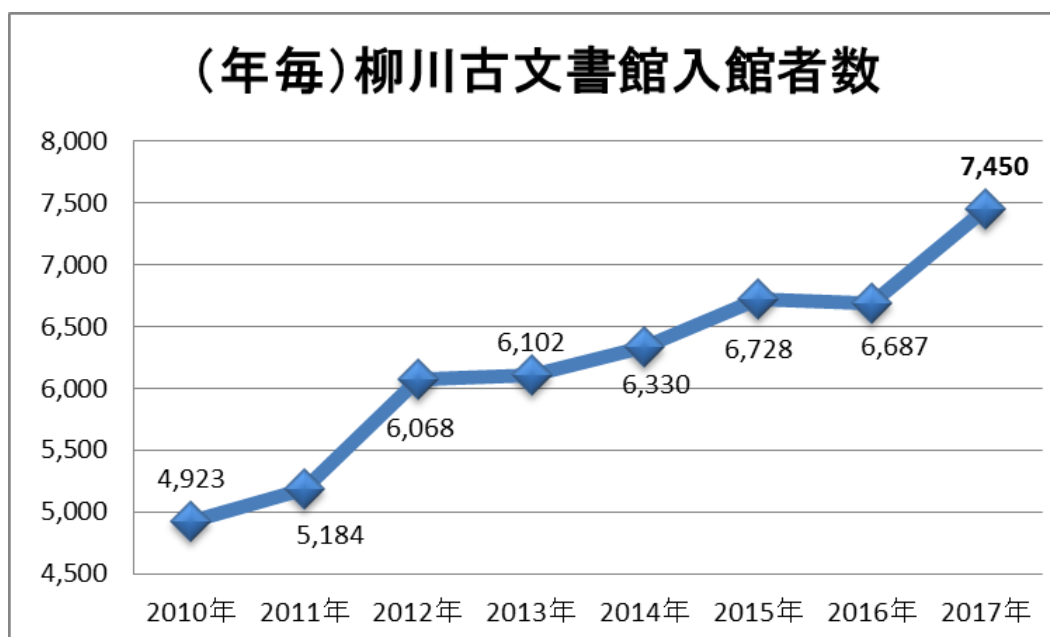
旧戸島家住宅は、柳川地方の武家住宅の典型例として、1957年に建物及び庭園のそれぞれが、福岡県の文化財に指定された。また、1978年には、庭園が国の名勝に指定されている。旧戸島家住宅の入場者数は6,150人で、2016年と比較し、約1,300人の減少となった。



(5) 柳川古文書館

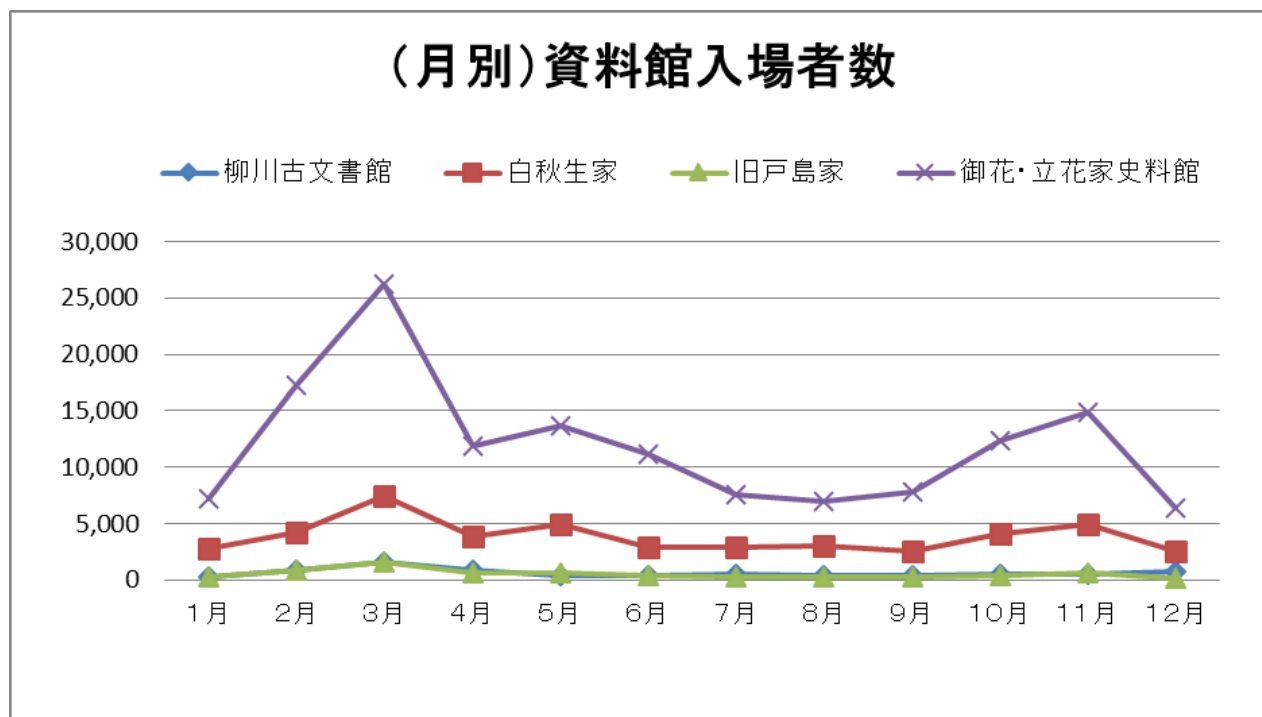
柳川古文書館は、福岡県教育委員会が設置し、柳川市教育委員会で運営管理を行っている施設である。収蔵史料の一部は、国指定重要文化財に指定されている。

このほか、柳川古文書館には、立花宗茂に関する資料も収蔵されている。2017年8月にNHK大河ドラマ招致柳川委員会が発足し、本格的に立花宗茂と闇千代を主人公とするNHK大河ドラマ招致に向けた活動を行ったことから、2017年の入館者数は7,450人であり、前年と比較し、約760人の増加となった。



(6) 資料館入場者数(月別)

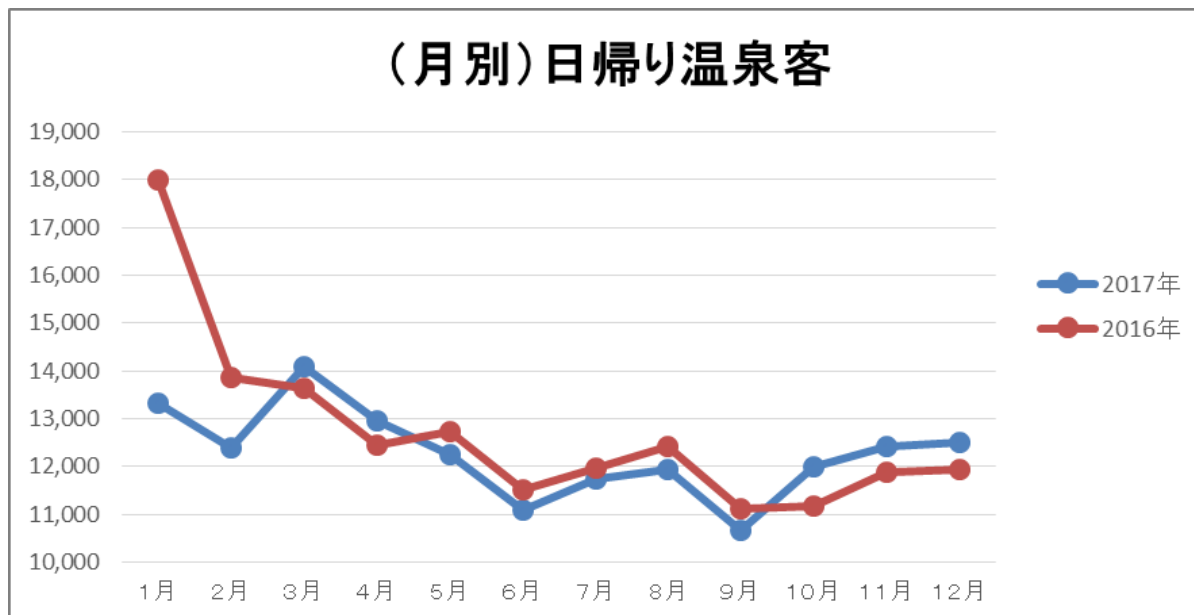
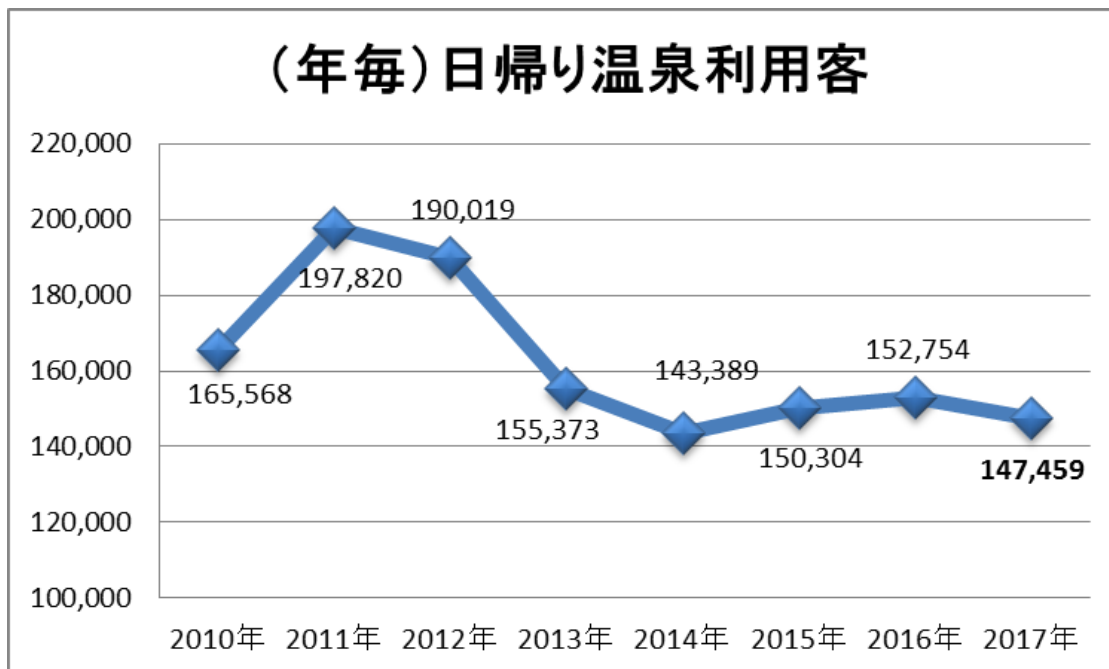
資料館別に入場者数をみると、御花・立花家史料館が最も入場者数が多く、次いで白秋生家、旧戸島家住宅、柳川古文書館の順となっている。北原白秋生家の来館者は、無料で旧戸島家住宅に入場できるが、年間入場者数を見ると、北原白秋生家約4万6千人に対して、旧戸島家住宅は約6千人となっている。



(7) 日帰り温泉

日帰り温泉客は、約14万7千人であり、前年と比較すると約5千人の減少となった。

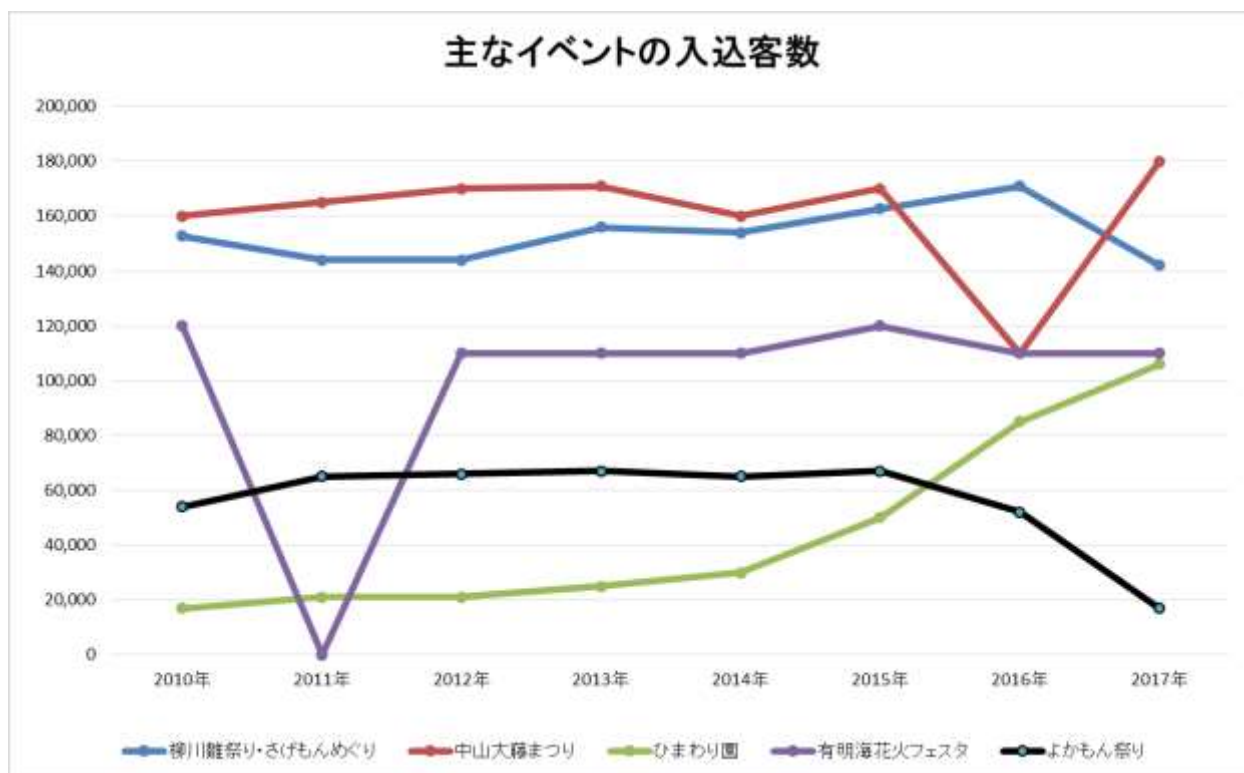
ほとんどの月で、例年どおりの入込客数となっているが、2017年1月は2016年同月と比較し、入込客数が少なかった。



7. 主なイベントの入込客数

主なイベントの入込客数は、主催者発表によると、「柳川雛祭り・さげもんめぐり」は約 14 万 2 千人、「中山大藤まつり」は約 18 万人であった。特に「中山大藤まつり」は、2016 年 4 月に発生した熊本地震の影響を受けた前年と比較すると、7 万人の増加となった。

「ひまわり園」は、満開となった 7 月下旬には道路が渋滞するほどの人出でにぎわった。乗用車で県外ナンバーも多く見られ、新しい若年層の取り込みと外国人観光客の増加が要因と推測される。「よかもんまつり」は、前年と同じく「学童農園むつごろうランド」で実施されたが、台風の影響を受け、予定された 2 日間のうち 1 日が中止となったことにより、入込客数は前年比 3 万 5 千人の減少となった。

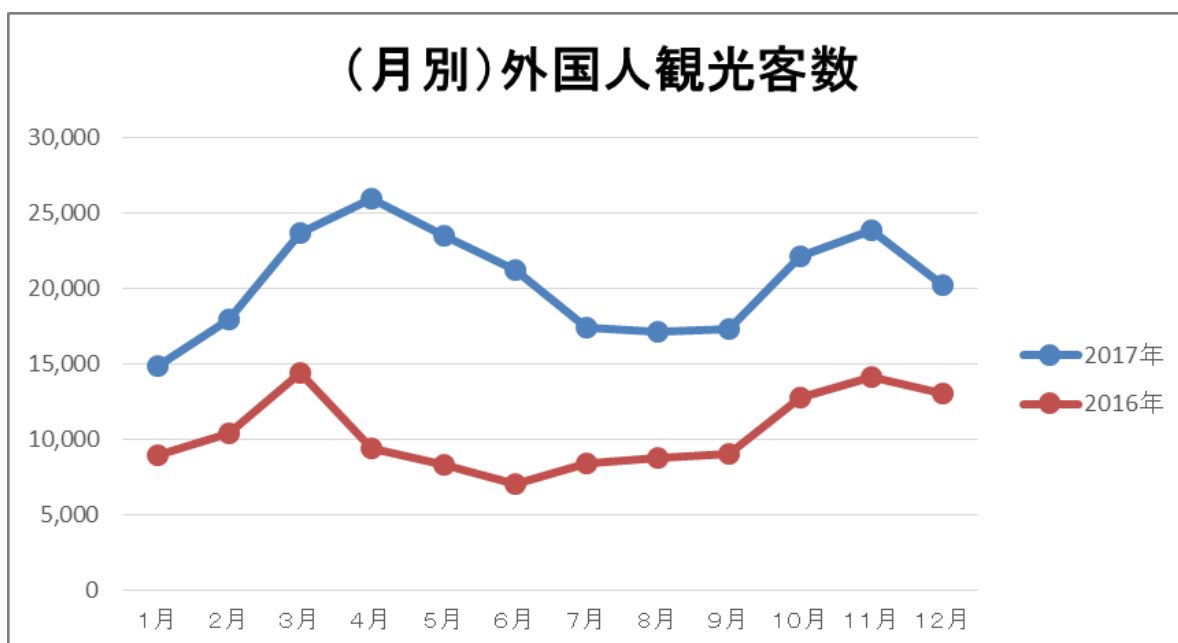
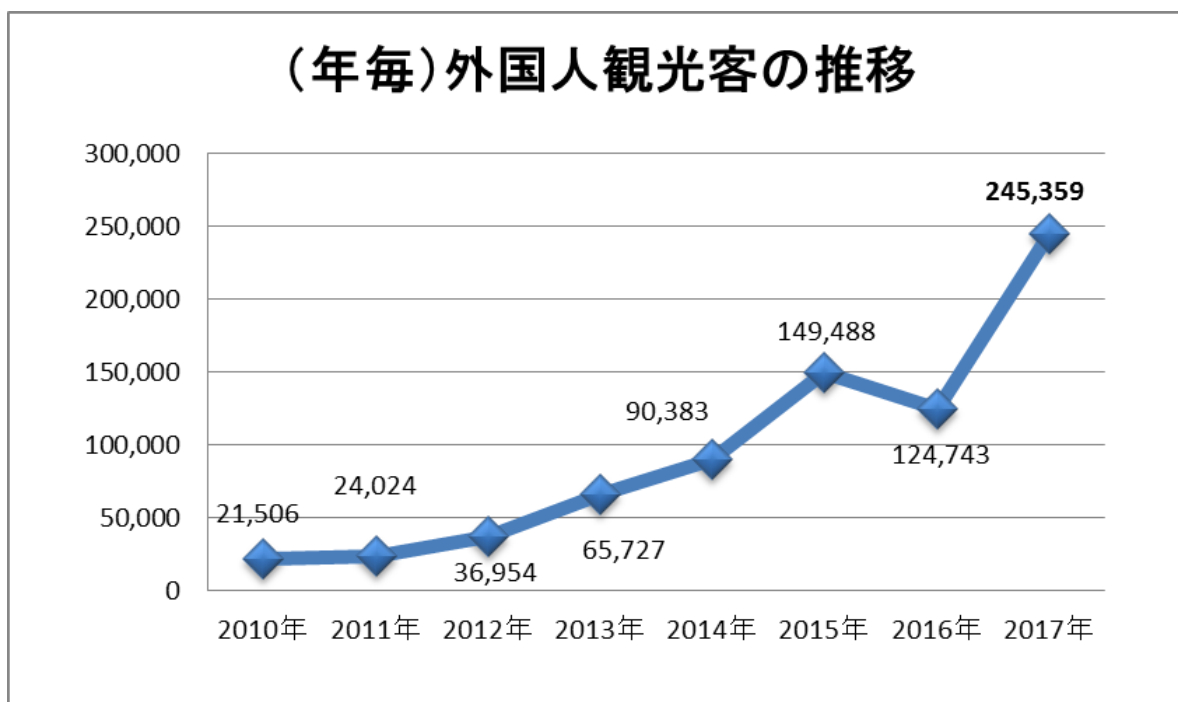


8. 外国人観光客

外国人観光客は、約 24 万 5 千人で、2016 年と比較し、約 12 万人の増加。国別にみると韓国、台湾、香港など、アジアからの観光客が大半を占めている。

九州の外国人入国者数は、九州運輸局が発表している 2017 年の年計で、約 494 万人と前年比 1.3 倍となった。国別にみると、韓国、台湾、中国、香港とアジアが中心。

また、福岡空港、博多港から入国した外国人が 6 年連続で過去最高の約 298 万人で、前年比約 1.2 倍の伸びがあった。



9. 1969年（昭和44年）から2017年（平成29年）までの観光動態推移

区分 (年)	入込客数 (人)	観光消費額 (円)	宿泊客数 (人)	白秋生家 (人)	川下り (人)	御花・史料館 (人)	外国人 (人)
1969(昭和44年)	232,630						
1970	279,390						
1971	357,710						
1972	408,850			72,037	42,855	109,320	
1973	451,256			74,214	33,243	103,366	
1974	508,087	1,033,752,100	40,055	80,508	44,456	106,039	
1975	597,803	1,641,477,670	37,033	97,352	49,856	123,439	
1976	616,128	2,179,065,660	39,124	103,597	68,680	114,753	
1977	655,332	2,459,792,040	40,932	128,433	102,997	148,673	
1978	634,854	2,472,051,540	42,182	124,538	98,099	151,273	
1979	647,202		50,552	139,320	121,852	177,761	
1980	709,273	2,755,995,340	48,218	151,138	130,669	194,261	
1981	744,720	3,097,512,020	56,413	147,069	134,002	194,062	
1982	775,255	3,206,645,290	60,434	158,724	140,535	192,787	
1983	804,111	3,343,847,850	60,989	164,385	171,685	184,687	
1984	851,100	3,577,549,060	66,092	188,851	204,694	207,258	
1985	877,500	3,708,718,000	69,588	203,235	201,337	227,732	
1986	878,000	3,742,323,540	64,465	205,761	215,168	212,205	
1987	902,000	3,896,384,900	69,670	208,531	222,785	209,393	
1988	888,500	3,891,563,010	74,226	201,126	224,917	201,405	
1989(平成元年)	986,200	4,353,949,920	69,568	214,284	289,380	245,453	
1990	980,300	4,337,242,420	71,191	197,535	293,099	216,185	
1991	1,117,800	5,139,087,360	105,828	217,035	362,896	267,613	
1992	1,197,100	6,167,183,200	101,016	229,743	387,582	293,051	
1993	1,152,700	6,207,328,330	100,389	207,463	375,733	280,705	
1994	968,300	5,324,329,790	97,572	166,204	295,329	230,247	
1995	993,500	5,619,051,770	107,268	160,912	314,704	227,629	
1996	1,032,800	5,847,380,200	106,641	156,935	340,633	210,951	
1997	1,046,800	5,987,902,950	99,672	148,600	349,470	235,317	
1998	1,051,500	5,581,155,800	91,652	140,444	365,383	241,808	
1999	1,052,700	5,436,385,650	79,390	127,629	389,137	241,563	
2000	1,053,600	5,343,206,400	70,971	127,665	386,447	242,552	
2001	1,071,800	5,529,153,600	78,747	118,430	407,354	260,742	
2002	1,073,000	5,460,435,800	70,135	106,171	411,470	251,005	
2003	1,112,100	5,555,540,000	65,259	104,474	400,450	237,138	
2004	1,290,000	6,089,742,100	63,544	82,945	344,864	237,700	
2005(合併後新市)	1,203,000	5,137,591,000	60,397	80,854	341,573	213,500	
2006	1,255,000	5,312,082,178	62,434	82,611	359,598	231,150	
2007	1,218,000	4,935,041,637	54,879	89,099	356,380	188,206	
2008	1,171,000	4,836,692,287	52,408	77,890	320,943	159,160	
2009	1,156,000	4,783,851,178	51,548	75,434	316,483	161,342	10,603
2010	1,159,000	4,689,542,363	42,239	65,149	315,702	133,429	21,506
2011	1,055,000	4,350,205,000	38,525	59,905	283,960	150,951	24,024
2012	1,173,600	4,537,631,300	41,710	56,857	292,154	137,990	36,954
2013	1,245,200	4,855,784,250	41,902	53,634	342,512	149,043	65,727
2014	1,259,700	5,229,003,217	41,634	55,005	348,566	156,038	90,383
2015	1,366,800	6,064,163,000	46,942	53,458	388,444	148,459	149,488
2016	1,316,000	6,120,981,000	51,534	49,979	340,317	151,029	124,743
2017	1,418,400	6,767,747,000	81,384	45,601	428,388	143,115	245,359

注：2004年（平成16年）以前の数値については、合併前の旧柳川市の数値を記載している。